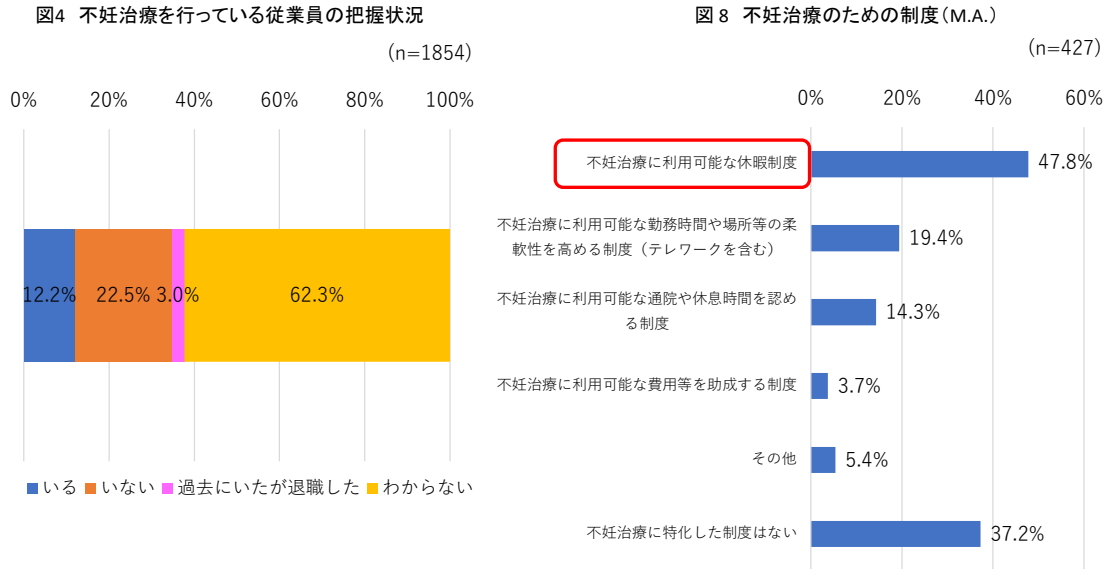


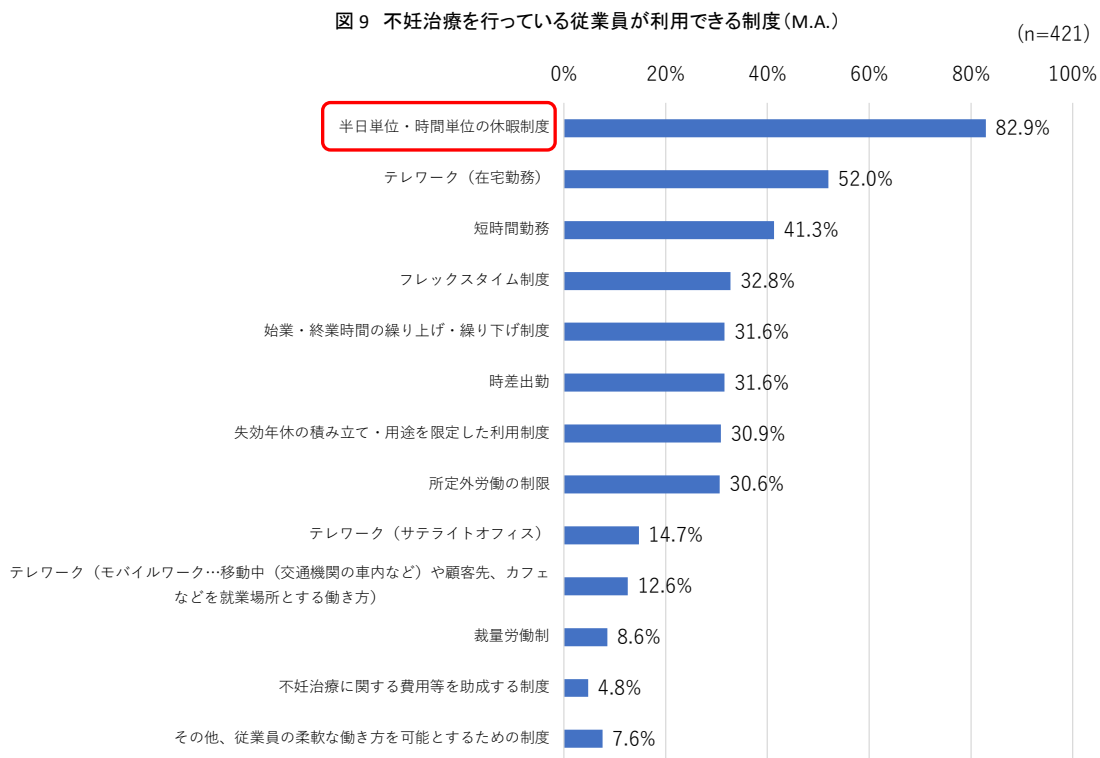
※以下、概要では図の番号を本編の番号と一致させる。

1. 企業アンケート調査結果概要

○半数以上の企業が、不妊治療を行っている従業員の把握ができていない。(図4)
 ○不妊治療を行っている従業員が受けられる支援制度等がある企業は26.5%。
 ○不妊治療を行っている従業員が受けられる支援制度等がある企業のうち、最も多く導入されているのは「不妊治療に利用可能な休暇制度」。(図8)



○不妊治療を行っている従業員が利用できる柔軟な働き方を可能とする制度のうち、最も多いのは「半日単位・時間単位の休暇制度」。(図9)



○不妊治療と仕事の両立に関する従業員への普及啓発を実施していない企業は95.7%。(図12)
 ○不妊治療を行っている従業員を対象に相談や面接の機会等を設けていない企業は78.9%。(図13)

図12 不妊治療と両立に関する普及啓発の実施状況(M.A.)
 (n=1842)

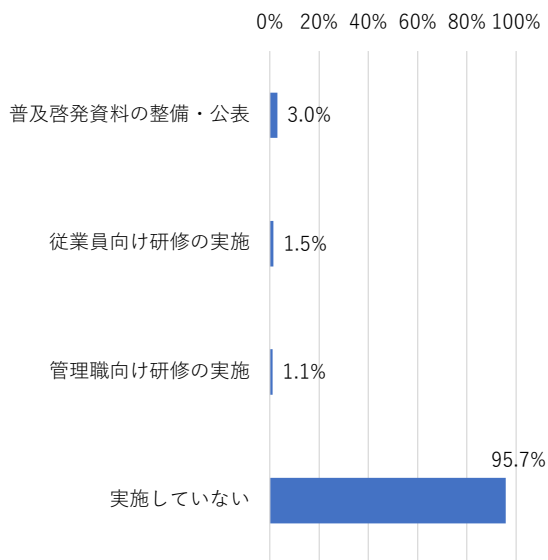
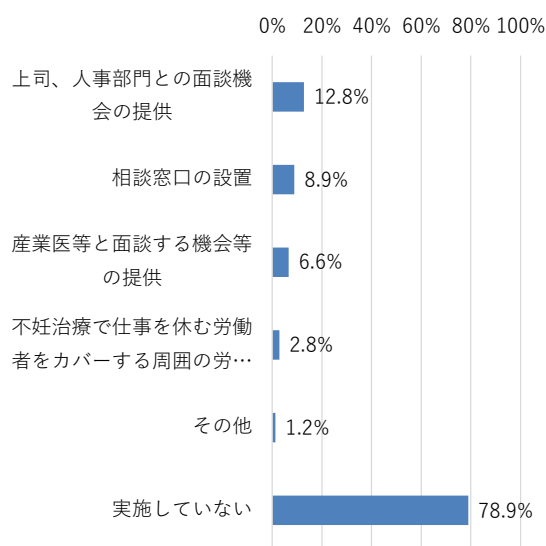


図13 不妊治療と仕事の両立支援の取組状況(M.A.)
 (n=1841)



2. 労働者アンケート調査結果概要

○不妊治療をしたことがある、もしくは、予定している人は14.5%。(図22)
 ○不妊治療をしたことがある人のうち、半数以上は仕事と両立しているが10.9%は退職し、7.4%が雇用形態を変更している。(図26)

図22 回答者の不妊治療経験の有無
 (n=2000)

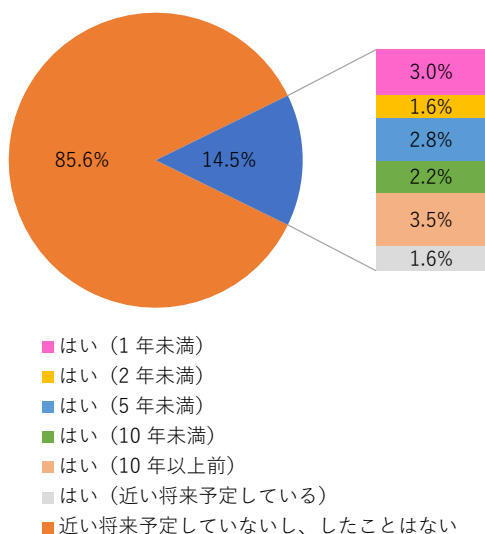
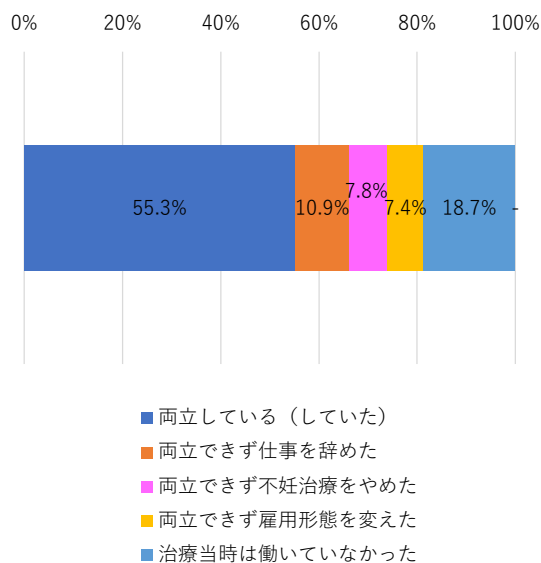
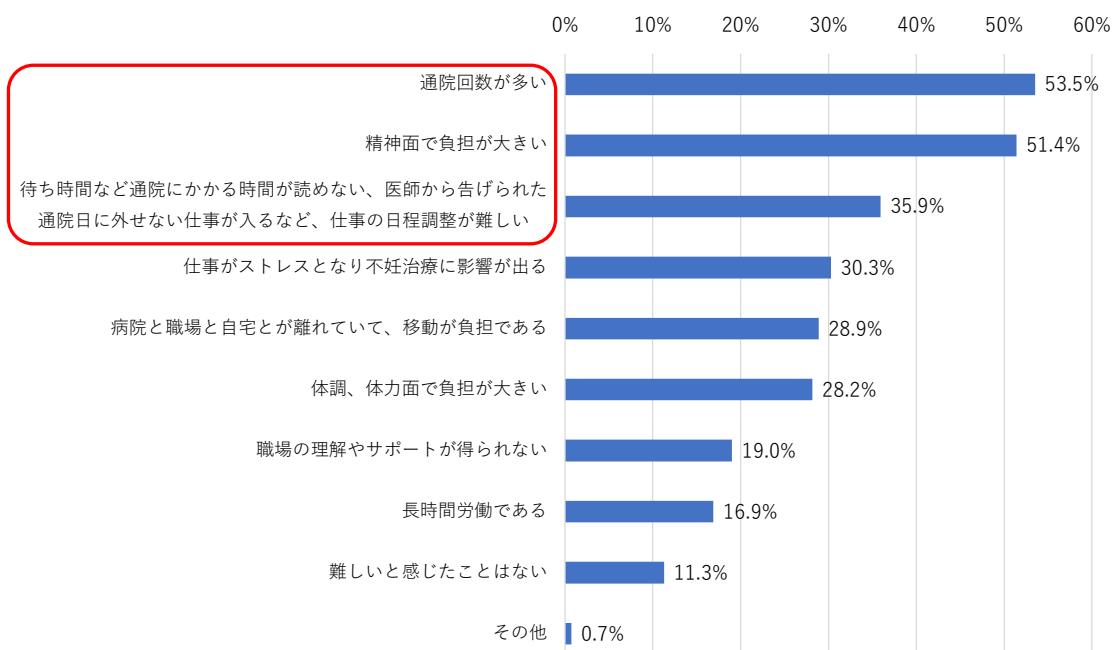


図26 仕事と不妊治療の両立状況(不妊治療中または治療経験者)
 (n=257)



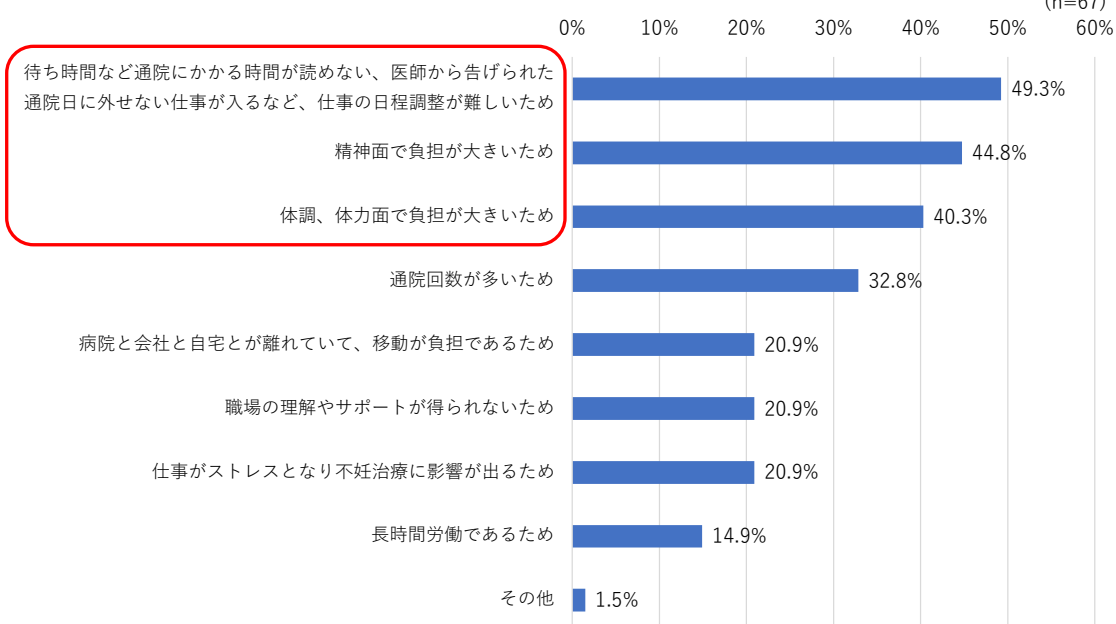
○不妊治療と仕事を両立している人が両立は難しいと感じる理由は、「通院回数が多い」、「精神面で負担が大きい」、「待ち時間など通院にかかる時間が読めない、医師から告げられた通院日に外せない仕事が入るなど、仕事の日程調整が難しい」が多くなっている。(図30)

図30 仕事と治療の両立が難しいと感じる内容(両立中・両立経験者)(M.A.) (n=142)

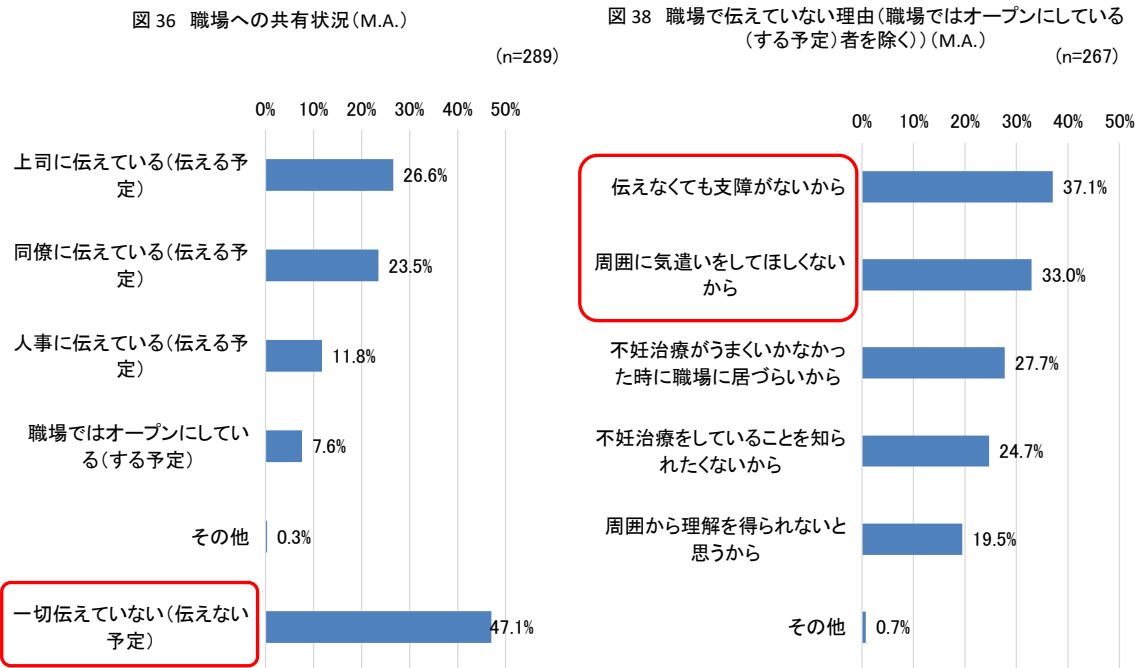


○両立できず仕事もしくは不妊治療をやめた、または雇用形態を変えた理由は「待ち時間など通院にかかる時間が読めない、医師から告げられた通院日に外せない仕事が入るなど、仕事の日程調整が難しいため」、「精神面で負担が大きいため」、「体調、体力面で負担が大きいため」が多くなっている。(図34)

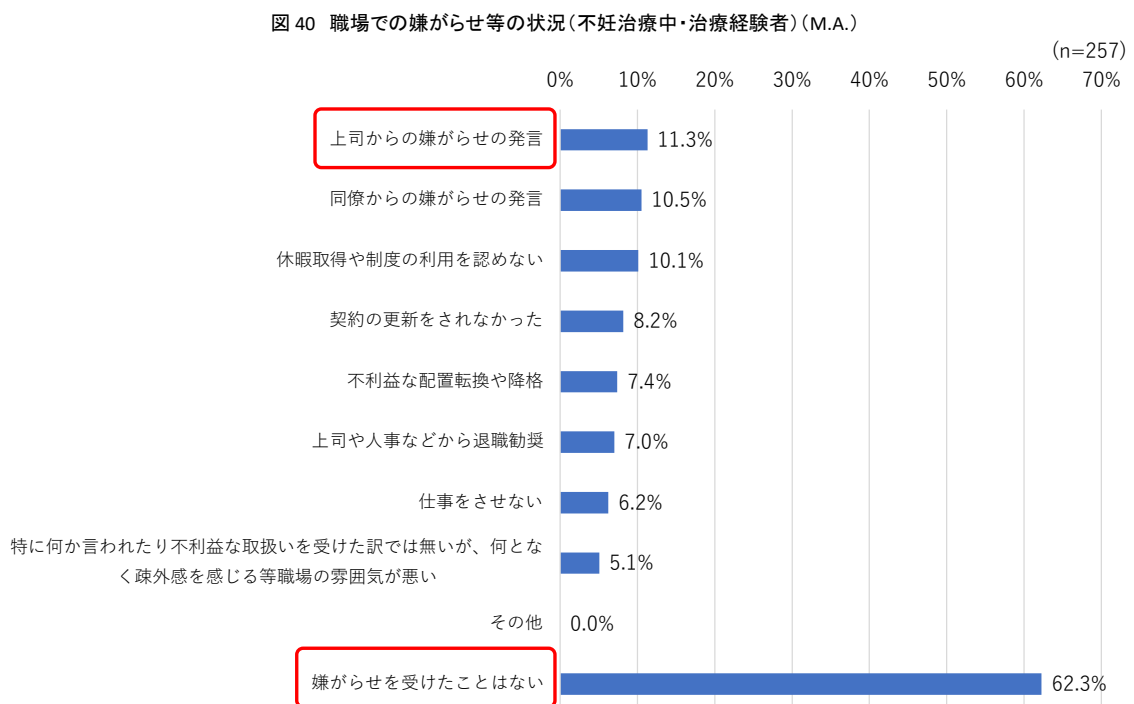
図34 仕事と治療の両立ができなかった理由(両立できず仕事を辞めた者、両立できずに不妊治療をやめた者、または両立できず雇用形態を変えた者)(M.A.) (n=67)



○不妊治療をしていることを職場で一切伝えていない(伝えない予定の)人は47.1%。(図36)
 ○職場でオープンにしていない理由は「伝えなくても支障がないから」、「周囲に気遣いをしてほしくないから」が多くなっている。(図38)

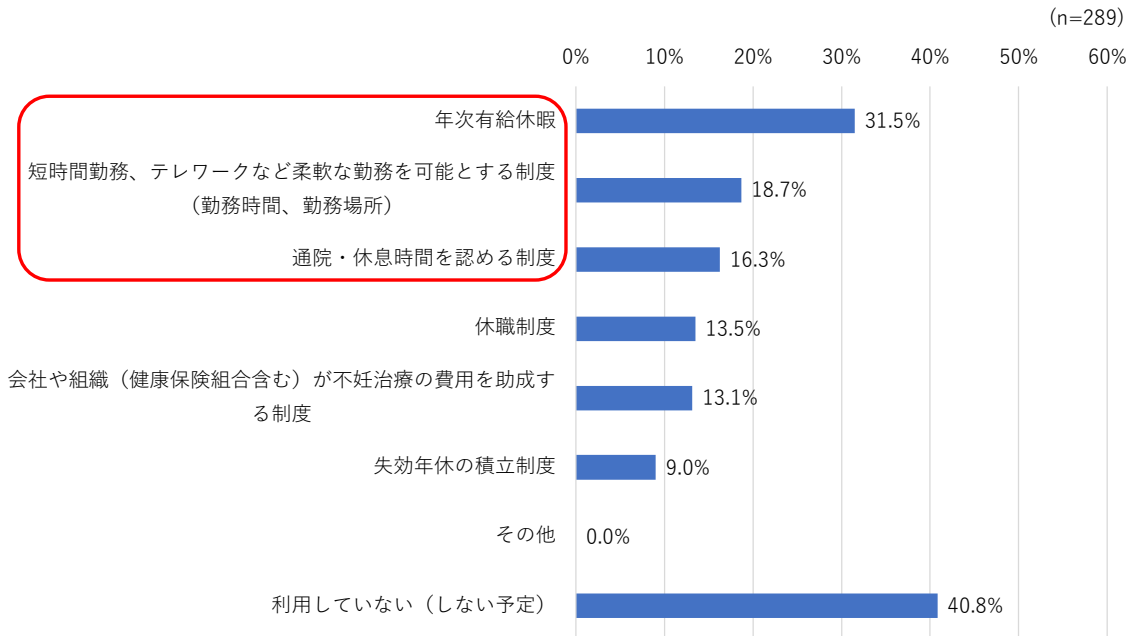


○不妊治療をしていることにより受けた嫌がらせ等の状況は「上司からの嫌がらせの発言」が多くなっている。また、「嫌がらせを受けたことはない」は62.3%。(図40)



○不妊治療と仕事を両立する上で利用した(利用する予定)制度は「年次有給休暇」、「短時間勤務、テレワークなど柔軟な勤務を可能とする制度(勤務時間、勤務場所)」、「通院・休息時間を認める制度」が多くなっている。(図46)

図46 両立のための制度利用状況(M.A.)



○不妊治療と仕事を両立する上で会社や組織に希望する制度は「不妊治療に利用可能な休暇制度」、「有給休暇など現状ある制度を取りやすい環境作り」が多くなっている。(図48)

○不妊治療と仕事の両立を図るために行政に望む支援は「企業における不妊治療と仕事との両立を支援するための勤務時間、休暇等に関する制度の導入を促す」、「不妊治療と仕事との両立を支援する企業への支援・助成」、「不妊治療への国民・企業の理解を深める」が多くなっている。(図50)

図48 会社等への希望(2つまで)

(n=289)

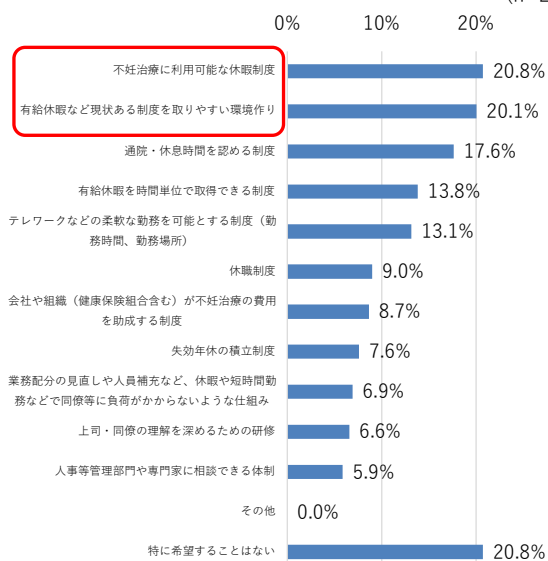
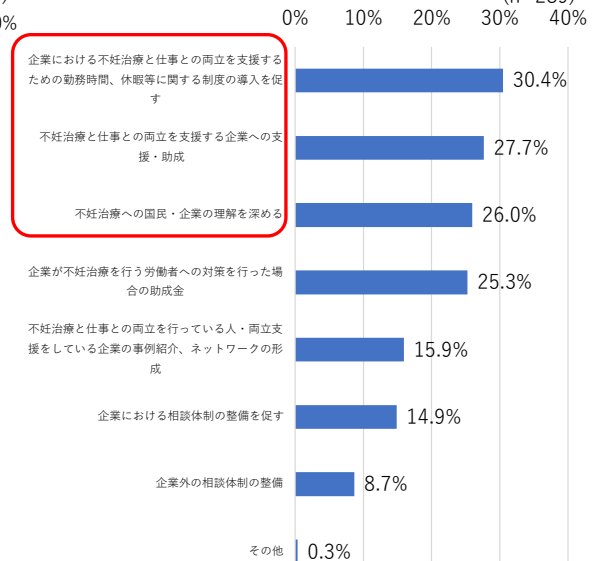


図50 行政に望む支援(2つまで)

(n=289)



○不妊治療をしている人と一緒に働く上で、どのような情報があると配慮をしやすいかについて、最も多かったのは「どの程度の休みが必要か(時期、頻度)」が33.1%。(図63)

